ヨード造影剤使用に関する説明書

Ｘ線検査（ＣＴを含む）では、「ヨード造影剤」という薬剤の注射をする場合があります。造影剤は、Ｘ線検査で病気の有無や病気の性質、範囲などをより正確に評価するために用いるものです。造影剤を使うかどうかは、検査に応じて主治医が判断いたします。

造影剤を使うとまれに副作用が起こることもあります。ぜんそくやアレルギー体質でこの確率は高くなります。なお、副作用の種類は次のようなものです。

１　軽い副作用

吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、くしゃみ、発疹などです。検査の１～２日後に発疹が現れることもあります。これらは治療を要さないか、１～２回の投薬や注射で回復するものです。このような確率は、100人につき１～1.5人（約１～1.5%）です。

２　重い副作用

呼吸困難、意識障害、血圧低下、腎不全などです。このような副作用は、通常は治療が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があります。このため、入院や手術が必要なこともあります。このような確率は、6,000～9,000人につき１人（約0.01～0.02%）です。

３　症状・体質によっては10～20万人に１人の割合（約0.0005%～0.001%）で死亡する場合があります。

４　糖尿病の方でビグアナイド系糖尿病薬を服用している場合、造影剤を使用すると腎機能が低下して乳酸が増加し、乳酸アシドーシス（吐き気、嘔吐などの胃腸症状、深く大きい呼吸、意識が薄れる、手足のふらつきなど）を発症することがありますので、造影剤使用検査後48時間はこの薬を使用しないでください。また、腎機能が悪い方は検査前も48時間はこの薬の使用を一時中止してください。なお、症状が出たらすぐに受診してください。

５　造影剤を注射する時には、体が熱くなることがありますが、ご心配ありません。まれに血管外へ造影剤がもれることがあり、注射した部分が腫れて、痛みを伴うこともあります。基本的には時間が経てば吸収されます。もれた量が非常に多い場合には、別の処置が必要となることもありますが、非常にまれです。